

■ファイバオプティクス標準化部会

概要

本部会の活動目的は、当協会におけるファイバオプティクス技術の標準化全般に関わる標準化ビジョンの策定およびそのメンテナンスを担うとともに、各標準化部会における課題／懸案事項などを集約して解決策を模索し、また、標準化活動全体の方向性などを定めることで、活動を効率化させることとしている。

ファイバオプティクスが利用される技術分野は多岐にわたるが、現時点において特に代表的なものは通信分野、データセンタ分野、センシング分野である。

通信分野（特にインターネット関連）において流通するデータ量は今後も増大し、さらなる設備の増設が見込まれている。2020年初頭より始まった感染症蔓延に伴うリモート勤務の拡大は、2023年度の5月に感染症種別の見直しがなされたことで落ち着いてきたように思われるが、快適なリモート勤務を行うためには通信容量の拡大が必須であり、引き続き情報通信インフラの需要は増大するものと思われる。

データセンタ分野においては、近年の急激な情報流通量の増加に伴って、通信機器の高速化が加速している。これに伴い、データセンタ内の電気機器（特にスイッチやルータ）における消費電力（発熱の処理などを含む）の増大が、地球環境保護（CO2抑制）の観点から問題視されている。ファイバオプティクスは、これら高速化の要求と消費電力問題解決の両立を図る技術として、さらなる発展が期待されている。

センシング分野においては、光ファイバや光デバイスを用いた新たなセンシング技術が続々と考案されており、特に社会的に重要と考えられるインフラ（土木・建物、電力設備、上下水道、ガスなど）を対象としての利用が期待されている。

このような背景の中、本部会は、ファイバオプティクス全般の調査研究を推進するとともに、JIS化と国際標準化における問題点解決と戦略提案を行うことを、主な活動としている。また本部会で公表する光産業技術振興協会規格（OITDA規格）及び技術資料（OITDA/TP）については、標準化を推進することを目的として、さらなる発展を図る活動を行っている。

本部会には、企画調整専門部会が配置されている。企画調整専門部会は、ファイバオプティクス標準化部会が果たす役割をサポートしファイバオプティクス分野全般の部会間調整及び戦略策定を行う。

部会開催予定

回	日程	曜	時間	会議形式	備考
第1回	2025/9/4	木	15:30～17:30	online	
第2回	2026/3/5	木	15:30～17:30	hybrid	

（順不同）

参加メンバ
N T Tアドバンステクノロジー株式会社
NTT株式会社
名古屋工業大学
株式会社フジクラ
古河電気工業株式会社
株式会社白山
I F i n i t y 株式会社
国立研究開発法人情報通信研究機構
株式会社 日立製作所
沖電気工業株式会社
東京大学
横河計測株式会社
大阪公立大学
経済産業省
一般財団法人日本規格協会